

様式1

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- | | | |
|-------------|---|----|
| 必要最低科目数・単位数 | 3 | 科目 |
| | 3 | 単位 |

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報活用法」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報活用法」 ・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「情報活用法」 ・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報活用法」
	1-6	・AI最新技術の活用例「統計分析法」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル「統計分析法」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ「情報活用法」 ・1次データ、2次データ「情報活用法」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「情報活用法」 ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「統計分析法」 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「統計分析法」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ可視化(複合グラフ、2軸グラフなど)「情報処理法」 ・データ解析(予測、モデル化)「統計分析法」
	1-5	・教育におけるデータ活用事例「情報活用法」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報処理法」 ・個人情報保護「情報処理法」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報処理法」 ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「情報処理法」 ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報処理法」 ・生成AIの留意事項「情報処理法」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報処理法」 ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報処理法」 ・サイバーセキュリティ「情報処理法」
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計分析法」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「統計分析法」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「統計分析法」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「統計分析法」 ・母集団と標本抽出「統計分析法」 ・クロス集計表「統計分析法」 ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「統計分析法」
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「情報処理法」 ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「情報処理法」 ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「情報処理法」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報処理法」
	2-3	・データの集計(和、平均)「情報処理法」 ・データの並び替え、ランキング「情報処理法」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムを通じて、学生は情報機器の基本操作やICTの活用方法を修得するとともに、必要な情報を主体的に収集・整理し、適切に表現・発信する力を身に付ける。また、統計的手法を用いてデータを客観的に分析し、根拠に基づいて判断する基礎的能力が養われる。さらに、情報倫理や情報セキュリティへの理解を深め、情報社会において責任ある行動をとる態度が形成される。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	24	人
(非常勤)	47	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

3	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	石井 學
(役職名)	学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	育英大学教務委員会
------	-----------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	育英大学教務委員会規則
------	-------------

⑥ 体制の目的

本教育プログラムは、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的素養を全学生に修得させ、データを適切に活用し課題解決に資する人材を育成することを目的としている。その推進体制として教務委員会を位置付け、全学的な教育課程の中で関連科目の整備および運用を行う。教務委員会は、各授業の内容や到達目標の整合性を図るとともに、履修状況や学修成果の把握、授業改善の検討を通じて教育の質保証を担う。また、学生アンケート等の結果を踏まえた継続的な改善を行い、プログラム全体の充実と実効性の向上を図る体制としている。

⑦ 具体的な構成員

教務部長 根本 想
 教育学部 教授 滝沢 和彦
 教育学部 教授 吉井 健人
 教育学部 教授 細井 洋伸
 教育学部 准教授 望月 文代
 教育学部 准教授 林 智草
 教育学部 准教授 正保 佳史
 教育学部 講師 小林 哲郎
 教育学部 講師 早瀬 博典
 事務局 教務課長 加藤 真一

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	35%
令和8年度予定	55%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本プログラムの履修者数・履修率の向上に向けて、段階的な普及計画を策定している。令和8年度は履修率55%を目標とし、主に初年次オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて本プログラムの目的や意義を周知するとともに、対象科目の履修を促進する。令和9年度は履修率75%を目標とし、各専攻における履修モデルへの位置付けや指導教員による個別指導を強化し、履修の定着を図る。さらに、授業内容の分かりやすさや実用性を高めることで、学生の学習意欲を喚起する。令和10年度以降は、関連科目を卒業必修として体系的に配置することにより履修率100%を実現する計画である。あわせて、履修状況の継続的な把握と改善を通じて、安定的な履修体制の確立を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムは、学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう、全学共通科目として開講し、履修しやすい時間割配置を行っている。また、複数クラスの設定や適切な受講人数の調整により、受講機会の確保を図っている。さらに、履修ガイダンスや指導教員による助言を通じて、履修方法や学習内容を周知し、学生が円滑に履修できる体制を整備している。加えて、ICTを活用した教材配信や課題提出環境を整えることで、学修環境の充実を図り、学生の多様な学習ニーズに対応している。今後も全学生に開かれた履修機会の確保に努める。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの履修促進に向けて、初年次オリエンテーションや履修ガイダンスにおいてプログラムの目的・意義および履修方法を丁寧に説明するとともに、シラバスや履修要項、大学ホームページ等を通じて広く周知している。また、LMS(学習管理システム)やメール配信を活用し、履修登録期間前後に対象学生へ直接案内を行うほか、指導教員による個別の履修指導においても受講を促している。さらに、授業で得られる具体的なスキルや将来の進路との関連を明示することで、学生の関心を高めている。今後も多様な媒体と機会を活用し、履修機会の周知と参加促進を図る。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムでは、できる限り多くの学生が履修・修得できるよう、段階的な学習内容の設計と個別支援を組み合わせたサポート体制を整備している。授業では基礎から応用へと無理なく進める構成とし、演習や課題を通じて理解の定着を図っている。また、LMSを活用した教材配信や課題提出により、授業外でも復習できる環境を整えている。さらに、課題に対するフィードバックや質問対応を通じて個々の理解状況に応じた支援を行うとともに、必要に応じて補足説明や再指導の機会を設けている。加えて、指導教員と連携し、履修状況の把握と継続的な学修支援を行う体制としている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムでは、授業時間内外において学生が継続的に学習できるよう、複数の支援体制を整備している。授業内では演習時間を確保し、その場で教員が巡回して個別の質問に対応するほか、課題の進捗に応じた助言を行っている。授業外においては、LMSを活用した質問受付機能を設け、随時教員が回答できる体制としている。また、電子メールによる問い合わせにも対応し、必要に応じて対面での個別指導の機会を設けている。さらに、授業資料や解説動画を配信し、復習や自己学習を支援することで、学生が主体的に学びを深められる環境を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

育英大学教務委員会

(責任者名)	根本 想
(役職名)	教務部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムを構成する「情報処理法」「情報活用法」「統計分析法」はいずれも卒業必修科目として設定されており、対象学生は全員履修することとなっている。そのため、履修率は原則として100%であり、プログラムの修得に向けた基盤は確実に担保されている。各科目においては、課題提出やレポート等を通じて到達度を評価しており、一定の基準を満たした学生に対して単位認定を行っている。以上より、本プログラムは全学生に対して確実に提供され、適切に履修・修得されていると評価できる。
学修成果		本プログラムを通じて、学生は情報機器の基本操作やICTの活用方法を修得するとともに、必要な情報を主体的に収集・整理し、適切に表現・発信する力を身に付けている。さらに、統計分析法により、データを客観的に読み取り、根拠に基づいて判断する基礎的な力が養われている。加えて、情報倫理や情報セキュリティに関する理解も深まり、情報社会において責任ある行動をとるための態度が形成されている。以上より、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養が総合的に身に付いていると評価できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		学生アンケートの結果から、本プログラムにおける授業内容については概ね高い理解が得られていることが確認されている。特に、情報処理法における基本的なICT操作や、情報活用法における情報収集・整理・発信の技能については、多くの学生が理解し、実践できていると回答している。一方で、統計分析法における確率や推定、検定といった数理的内容については、理解に差が見られる傾向も確認されている。今後は、基礎的内容の補強や段階的な指導の充実を図ることで、さらなる理解の向上が求められる。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		学生アンケートの結果から、本プログラムに対する後輩等への推奨度は概ね高い水準にあることが確認されている。特に、情報機器の操作やレポート作成、プレゼンテーションなど、大学生活や将来の職業に直結する実践的な内容に対して有用性を感じている学生が多く、他の学生にも履修を勧めたいという意見が多く見られる。一方で、統計分析法については難易度の高さを指摘する声も一部にあるが、基礎的なデータ理解の重要性は認識されており、総合的には推奨意欲は高いと評価できる。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムを構成する3科目はいずれも卒業必修科目として位置付けられているため、全学的な履修者数および履修率は安定して高い水準で推移している。履修率向上に向けた特別な施策を講じる必要は現時点では少ないが、引き続き初年次教育の中で本プログラムの意義を明確に伝えるとともに、各授業における到達度の可視化や学修支援の充実を図っている。今後も全学生が確実に履修・修得できる体制を維持しつつ、理解度の向上に重点を置いた改善を継続していく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラム修了者は、教育・保育分野を中心に多様な進路に進んでおり、現場においてICTを活用した授業実践や業務の効率化に寄与している。特に、情報機器の基本操作やデータの整理・活用に関する能力は、実務に直結する基礎的スキルとして評価されている。また、情報倫理や情報セキュリティに関する理解も、教育現場において適切な指導を行う上で重要な資質として認識されている。企業や実習先からは、情報活用能力を備えた人材として一定の評価を得ており、今後も社会の要請に応じた能力育成が求められる。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界からは、ICTの基礎的操作に加え、情報を主体的に収集・分析し、課題解決に結び付ける力の重要性が指摘されている。また、生成AIをはじめとする新たな技術の活用能力や、情報倫理・セキュリティに関する理解も強く求められている。本プログラムはこれらの基礎的素養の育成に資する内容となっているが、今後はより実践的な課題設定やデータ活用の場面を取り入れることにより、社会の変化に対応できる力を一層高めていく必要がある。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムでは、身近な情報機器の活用や日常生活に関わるデータを題材とすることで、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさと意義を実感できるよう工夫している。情報処理法や情報活用法では、レポート作成やプレゼンテーション、情報探索など実践的な活動を通して、学びが生活や将来に直結することを理解させている。さらに、統計分析法では、データに基づいて物事を捉える視点を養い、根拠をもって判断することの重要性を体験的に学ばせている。これらを通じて、学ぶことの有用性と興味関心の喚起を図っている。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムでは、内容・水準を維持しつつ、学生にとって分かりやすい授業となるよう工夫している。具体的には、基礎的な内容から段階的に学習を進める構成とし、演習や課題を通して理解を定着させている。また、実生活や教育現場に関連する具体例を取り入れることで、抽象的な概念の理解を促進している。さらに、課題に対するフィードバックや振り返りの機会を設けることで、個々の理解状況に応じた学修支援を行っている。今後も、学生の理解度を踏まえた授業改善を継続し、より効果的な学修環境の構築を目指す。

講義科目名称： 情報処理法

授業コード：

英文科目名称： Information Processing Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2025	1年	1	卒業必修
担当教員			
加藤 充布			
演習	教職(66条の6) 保育士	基礎教育科目	UFF-1-01
添付ファイル			

日程	前期	
授業計画	第1回	オリエンテーション 情報処理の目標と意義、講義のねらいと方法、評価などの説明 メール設定やClassroom参加など 講義に必要な準備を行う 【課題01】情報リテラシー／データ・AI利活用における留意事項
	第2回	Wordの利用01 文書作成Wordの基本書式について Wordの基本操作について説明 簡単な文章作成
	第3回	Wordの利用02 表の挿入・編集 Wordの表挿入・編集について説明 【課題02】文書の種類について調べる
	第4回	Wordの利用03 ビジネス文書作成 ビジネス文書作成をする 次回課題「レポート作成」の準備を始める
	第5回	Wordの利用04 レポート作成 以前調べた 文書の種類 に基づき 【課題03】「(テーマ未定)」レポートを作成する
	第6回	PowerPointの利用01 基本操作 PowerPointの基本操作について説明 【課題04】「(テーマ未定)」スライドショー作成01 ※「テーマ」はクラス内で意見交換決定
	第7回	PowerPointの利用02 テーマ未定 【課題04】「(テーマ未定)」スライドショー作成02、提出
	第8回	Excelの利用01 基本的な使い方 Excelの基本操作について説明 四則演算の簡単な計算
	第9回	Excelの利用02 数式活用、関数 絶対参照、簡単な関数について IF関数や割合、構成比について01
	第10回	Excelの利用03 数式活用、関数(続き) IF関数や割合、構成比について01
	第11回	Excelの利用04 グラフ作成 様々なグラフの作成と複合グラフについて
	第12回	Excelの利用05 高度な関数について VLOOKUP、COUNTIF、SUMIFなどの高度な関数について
	第13回	Excelの利用06 データベースについて 並び替え、フィルター機能などについて
	第14回	Excelの利用07 課題作成・完成 Excel総まとめ 【課題05】Excelまとめ問題作成・提出
	第15回	全体の振り返りとまとめ Word と Excel の連動 教科書以外に便利な関数の紹介 総まとめ
この科目のテーマと授業の概要	現在の複雑化した高度情報化社会において、適切な情報活用は生活に不可欠なものである。本演習は、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的とする。更にICT教育の重要性が増す中、教育における情報の役割と活用について理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、インターネットを通しての情報検索、電子メールの受発信などの基礎的な知識と技能について実践的に学習する。	
この科目を履修する学生が達成すべき学修成果	・コンピュータや情報の歴史や理論を知り、現代社会における情報処理能力の重要性を理解し、情報処理の実習を通して、具体的な情報処理能力を身に付けている。 ・情報倫理を学び、正しい情報処理ができる。	
教科書	30時間でマスター Office2019 (Windows10対応) 実教出版	
参考書、指定図書、資料など	特になし	

成績評価方法	課題への取り組み・提出状況（100％）で評価する
事前・事後学習	毎回の内容の復習を丁寧に行い、理解を確実にする。日常生活や課題作成でWordやExcel、Powerpointを積極的に活用する 〔事前・事後学習：各0.5時間：合計1時間以上〕
履修上の注意	・将来教員になるための力量を高めようという意欲を持って受講することを望む ・講義には真剣に取り組み、欠席しないこと ・講義中未完成問題は、次回講義までに完成させること
担当教員実務経験	
ディプロマポリシーとの関連	〔児童教育専攻〕 1. 児童教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる 〔スポーツ教育専攻〕 1. 体育・スポーツ教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる
フィードバック方法等	次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説します。 ・難解な課題の要点について、各質問については、メール等で画像なども活用しながら解説を配信します。
アクティブ・ラーニング	○

講義科目名称： 情報活用法

授業コード：

英文科目名称： Information Utilization Method

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2025	1年	1	卒業必修
担当教員			
山川 恭子			
演習	教職(66条の6) 保育士	基礎教育科目	UFF-1-02
添付ファイル			

日程	後期	
授業計画	第1回	オリエンテーション・情報活用を学ぶ意義 情報処理の目標と意義、講義のねらいと方法、評価などの説明 情報社会と教育の情報化の現状について理解する
	第2回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（１） 各種情報資源と情報探索法の基礎 Web情報資源の探索法と活用
	第3回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（２） 図書情報の探索法と図書館の活用
	第4回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（３） 雑誌記事索引・電子ジャーナルの探索法と活用
	第5回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（４） 事実情報の探索と収集 言葉・事柄・人物情報の検索および統計情報の検索
	第6回	情報整理法の指導（１） 収集した情報の分類・整理法と情報の加工 パスファインダーの概要 主題へのアプローチ
	第7回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（５） 主題に基づく情報資源の検索と収集
	第8回	教育課題の情報収集の実習：情報探索法（６） 主題に基づく情報資源の探索 主題検索と図書資料の探索の実践
	第9回	情報整理法の指導（２） パスファインダー作成における学習効果を理解する パスファインダーの構成を理解する
	第10回	情報整理法の指導（３） パスファインダーの作成
	第11回	情報整理法の指導（４） パスファインダーの作成
	第12回	情報整理法の指導（５）・情報表現法の指導（１） パスファインダーの作成と更新 ルーブリックの基礎知識
	第13回	情報表現法の指導（２） ルーブリックの作成
	第14回	情報表現法の指導（３） パスファインダーの相互評価・フィードバック
	第15回	全体のまとめ これまでの学習内容を振り返る
この科目のテーマと授業の概要	本科目は、「情報処理法」の授業内容を踏まえたうえで、あらゆる情報の中から自身にとって必要な情報を主体的に収集・選択する能力、それらの情報を処理・加工し、発信する能力を身につけることを主な目的として、情報社会に関する理解を深め、将来教員になったときに必要なコンピュータの知識と操作方法、情報モラル、情報通信技術(ICT)、各種オンラインサービスを利用した情報検索法・情報整理法・情報表現法について、演習を通して学習し、教育の情報化に対応できる教員としての知識や技術を身につけることを目的とする。	
この科目を履修する学生が達成すべき学修成果	1. 情報社会と、それに伴う教育の情報化について理解し、将来教員になったときに情報機器を活用した教育を実践することができる。 2. コンピュータやネットワーク等の一般的な情報通信技術(ICT)に関する知識を身につけており、それらの知識を学生生活や社会生活に生かすことができる。 3. 自身の目的に応じて、適切な情報源の選択と情報探索のスキルを身につけており、収集した情報を整理・加工して他者に向けて表現することができる。 4. 情報セキュリティ、情報倫理、著作権に関する知識を有している。	
教科書	なし。 毎回の授業で必要な資料(電子ファイル)を配布する。	
参考書、指定図書、資料など	1. 佐藤望[他]著『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2020、ISBN:9784766426564、育英大図書館所蔵(https://ikuei.opac.jp/opac/Holding_list?rgtn=069530)	

	2. 鹿島みづき著『パスファインダー作成法 主題アクセスツールの理念と応用』樹村房, 2016, ISBN:9784883672585, 育英大図書館所蔵(https://ikuei.opac.jp/opac/Holding_list?rgtn=064497)
成績評価方法	授業内で実施する小テスト(40%)、最終課題レポート(50%)、相互評価への取り組み姿勢(10%)によって評価する。
事前・事後学習	毎回の内容の理解を確実にする。 日頃から教育に関する情報収集に努め、それについて考察する。 〔事前・事後学習:各0.5時間:合計1時間以上〕
履修上の注意	・将来教員になるための力量を高めようという意欲を持って受講することを望む。 ・講義には真剣に取り組み、欠席しないこと。
担当教員実務経験	
ディプロマポリシーとの関連	〔児童教育専攻〕 1. 児童教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。 〔スポーツ教育専攻〕 1. 体育・スポーツ教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。
フィードバック方法等	小テストのフィードバックはGoogle Classroomまたは次回の授業冒頭で実施する。
アクティブ・ラーニング	○

講義科目名称：統計分析法

英文科目名称：Statistics

授業コード：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2025	1年	1	卒業必修
担当教員			
大野 侑亮			
演習	保育士	基礎教育科目	UFF-1-03
添付ファイル			

日程	後期	
授業計画	第1回	ガイダンス、基礎的な数学の確認 統計学を学ぶ意義を確認し、今後使用する基礎的な数学の復習をする。
	第2回	記述統計学① 教科書 p. 1-15 データの要約方法について学ぶ。
	第3回	記述統計学② 教科書 p. 16-38 分析対象とする集団の属性を知るための手法について学ぶ。
	第4回	確率の基礎① 教科書 p. 39-47 基礎となる確率を学び、定義を理解する。 (順列、組み合わせ、確率の定義)
	第5回	確率の基礎② 教科書 p. 39-47 基礎となる確率を学び、定義を理解する。 (余事象、積事象による確率、ベイズの定理)
	第6回	確率分布 教科書 p. 48-70 確率分布の定義を理解し、様々な分布の種類を知る。
	第7回	大数の法則と中心極限定理 教科書 p. 48-70 標本から母集団を推定するために必要な知識を学ぶ。
	第8回	母集団と標本 教科書 p. 71-89 母集団と標本の違いを理解し、統計量の算出方法を学ぶ。
	第9回	統計的推定① 教科書 p. 71-89 点推定について学ぶ。基礎
	第10回	統計的推定② 教科書 p. 71-89 区間推定について学ぶ。応用
	第11回	仮説検定① 教科書 p. 90-140 仮説検定の考え方と検定の流れを学ぶ。基礎 (1標本に対する検定)
	第12回	仮説検定② 教科書 p. 90-140 仮説検定の考え方と検定の流れを学ぶ。応用 (2標本に対する検定)
	第13回	クロス集計表に基づく統計的推測 教科書 p. 141-161 クロス集計表とその解釈方法について学ぶ。
	第14回	相関分析 教科書 p. 162-178 相関関係と共分散について学ぶ。 相関係数に対する統計的な推測方法を知る。
	第15回	回帰分析 教科書 p. 179-193 単回帰分析のパラメータの推定方法を学ぶ。
この科目のテーマと授業の概要	近年の情報化技術やAIの発展に伴って、あらゆる行動を起こすために、エビデンス（科学的根拠）を求められるようになっている。この根拠となるものに統計学は使用される。また、我々に提示される数値も統計学に基づいたものとなっている。本講義では、数値データの統計的な分析手法を理解することを目的として、具体的な数値に基づいた統計量の計算方法、分析方法、活用方法などを学習する。	
この科目を履修する学生が達成すべき学修成果	1 統計の基礎を知り、データを正しく要約することができる。 2 さまざまな分布を知り、活用することができる。 3 統計的推定をすることができる。 4 統計的検定をすることができる。	

教科書	実践のための基礎統計学、下川敏雄、講談社、ISBN：978-4-06-156562-3
参考書、指定図書、資料など	【参考書】 基礎統計学Ⅰ 統計学入門、松原望 他、東京大学出版、ISBN：978-4-13-042065-5 統計学のやさしい授業、三井正、オーム社、ISBN：978-4-274-22959-6
成績評価方法	課題レポート（3回、計60%程度）、講義に関する勉強ノート（40%程度）で総合的に判断する。
事前・事後学習	事前学習：教科書をよく読み、不明な用語を調べておくこと。（1時間程度） 事後学習：講義中に説明した練習問題等を良く復習すること。（1時間程度）
履修上の注意	授業の進捗状況によって、内容が前後する場合があります。 課題に関しては、不定期に出すので、欠席をしないようにしてください。 内容が理解できない場合は、講義後もしくは、初回に提示するメールアドレスを提示するので、メールにて質問してください。 課題については、必ず自分自身で実施し、剽窃の疑いがある場合（他の学生と内容が同じなど）は、提出を認めない場合があります。
担当教員実務経験	
ディプロマポリシーとの関連	〔児童教育専攻〕 1. 児童教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。 〔スポーツ教育専攻〕 1. 体育・スポーツ教育現場に求められる教養的知識を修得し、専門的職業人としての役割を果たすことができる。
フィードバック方法等	提出された課題やノートに基づいてコメントを行う。
アクティブ・ラーニング	○ 講義中に練習問題を課す。一人で解くのではなく、周囲の人間と強調して、討論もしくは相手に教えることで、学習したことを要約する力をつける。

児童教育専攻 教育課程表 〈令和7年度 入学生〉

科目 区分	授業科目の名称	授業 形態	単位 数	1年		2年		3年		4年		共通 開設	卒業 要件	免許・資格関連		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			小学校	幼稚園	保育士
基礎 教育 科目	思考力の養成	情報処理法	演習 1	●									必修 5科目 5単位	●	●	●
		情報活用法	演習 1		●									●	●	●
		統計分析法	演習 1		●											●
		問題解決法	演習 1					●								●
		創造思考法	演習 1						●						○	●
	表現力の養成	英語Ⅰ（基礎）	演習 1	●									必修を 含めて 5単位 以上	●	●	●
		英語Ⅱ（応用）	演習 1		●									●	●	●
		英語Ⅲ（実践）	演習 1			○										○
		日本語Ⅰ（読解、分析）	演習 1	●												●
		日本語Ⅱ（作文、論文）	演習 1	●												●
		日本語Ⅲ（発表、討論）	演習 1		●											●
	人間力の養成	自己管理と社会規範	演習 1	●									必修 4科目 4単位		○	●
		チームワークとリーダーシップ	演習 1			●									○	●
		地域活動と社会貢献	演習 1	●											○	●
		他者理解と信頼関係	演習 1		●										○	●
	社会力の養成	基礎ゼミⅠ	演習 1	●									必修 6科目 6単位			
		基礎ゼミⅡ	演習 1		●											
		総合ゼミⅠ	演習 1			●										
		総合ゼミⅡ	演習 1				●									
		キャリアプランニングⅠ	演習 1					●								●
		キャリアプランニングⅡ	演習 1						●							●
	人間の理解	心理と行動	講義 2	○									2単位 以上			
		健康と運動	演習 2	○										●	●	●
		歴史と文化	講義 2				○									
		生命と倫理	講義 2								○					○
	社会の理解	社会と憲法	講義 2	○									2単位 以上	●	●	○
		政治と行政	講義 2				○									
		経済と政策	講義 2				○									
		自然と環境	講義 2								○					○
専門 教育 科目	基幹 科目	人間形成論	講義 2	●									必修 9科目 18単位		○	●
		心理学概論	講義 2	●												
		対人関係論	講義 2		●											●
		道徳教育論	講義 2		●											●
		教育学概論（幼・小）	講義 2	●										●	●	●
		教育心理学	講義 2		●									●	●	●
		特別支援教育論	講義 2		●									●	●	●
		教育行政学（幼・小・中・高）	講義 2		●									●	●	
		教職概論（幼・小）	講義 2		●									●	●	●
	展開 科目	国語	講義 2			○							30単位 以上	◎		
		社会	講義 2				○							◎		
		算数	講義 2			○								◎		
		理科	講義 2				○							◎		
		音楽	演習 2			○								◎		
		図画工作	演習 2			○								◎		
		体育	演習 2			○								◎		
		体育実技Ⅰ	実技 1		○							(ス)		◎		
		体育実技Ⅱ	実技 1			○						(ス)		◎		
		体育原理	講義 2		○							(ス)		◎		
		運動学・運動方法学	講義 2				○					(ス)		◎		
		生理学・運動生理学	講義 2			○						(ス)		◎		
		衛生学・公衆衛生学	講義 2					○				(ス)		◎		
		小学校英語	講義 2			○								◎		
		初等教科教育法（国語）	講義 2					○						●		
		初等教科教育法（社会）	講義 2						○					●		
		初等教科教育法（算数）	講義 2					○						●		
		初等教科教育法（理科）	講義 2						○					●		

科目 区分	授業科目の名称	授業 形態	単位 数	1年		2年		3年		4年		共通 開設	卒業 要件				免許・資格関連		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						小学校	幼稚園	保育士
専門 教育科目	初等教科教育法（生活）	講義	2					○					30 単位 以上	専門 教育科目 から 合わせて 96 単位 以上	基礎 教育科目 と専門 教育科目 を合わせて 124 単位 以上		●		
	初等教科教育法（音楽）	講義	2					○									●		
	初等教科教育法（図画工作）	講義	2					○									●		
	初等教科教育法（家庭）	講義	2						○								●		
	初等中等教科教育法（体育・保健体育）	講義	2					○									●		
	初等教科教育法（外国語）	講義	2						○								●		
	教育課程論（幼・小）	講義	2			○											●	●	●
	道徳の指導法（小・中）	講義	2				○										●		
	総合的な学習（探究）の時間の指導法（小・中・高）	講義	2					○									●		
	特別活動の指導法（小・中・高）	講義	2						○								●		
	教育方法論（幼）	講義	2				○											●	○
	教育方法論（ICT活用を含む）	講義	2				○										●		
	生徒・進路指導の理論と方法（小・中・高）	講義	2					○									●		
	教育相談の理論と方法（幼・小・中・高）	演習	2						○								●	●	
	保育内容総論	演習	1				○											●	●
	幼児と健康	演習	1				○											●	●
	幼児と人間関係	演習	1				○											●	●
	幼児と環境	演習	1				○											●	●
	幼児と言葉	演習	1				○											●	●
	幼児と表現A	演習	1				○											○	○
	幼児と表現B	演習	1				○											○	○
	保育内容（健康）の指導法	演習	2				○											●	●
	保育内容（人間関係）の指導法	演習	2				○											●	●
	保育内容（環境）の指導法	演習	2					○										●	●
	保育内容（言葉）の指導法	演習	2					○										○	○
	保育内容（表現A）の指導法	演習	2					○										○	○
	保育内容（表現B）の指導法	演習	2						○									○	○
	幼児理解の理論と方法	講義	2				○											●	●
	保育原理	講義	2		○														●
	子ども家庭支援の心理学	講義	2				○												●
	子ども家庭福祉	講義	2				○												●
	社会福祉	講義	2				○												●
	子ども家庭支援論	講義	2					○											●
	子育て支援	演習	1					○											●
	社会的養護Ⅰ	講義	2				○												●
	子どもの保健	講義	2					○											●
	子どもの健康と安全	演習	1						○										●
	子どもの食と栄養	演習	2						○										●
	乳児保育Ⅰ	講義	2					○											●
	乳児保育Ⅱ	演習	1						○										●
	社会的養護Ⅱ	演習	1						○										●
発展 科目	発達心理学	講義	2				○						10 単位 以上					◎	○
	学校心理学	講義	2						○								○	◎	
	カウンセリング論	講義	2					○										◎	
	学校・学級経営	講義	2					○											
	チーム学校論	講義	2								○								
	音楽表現演習Ⅰ	演習	1	○														◎	○
	音楽表現演習Ⅱ	演習	1			○												◎	○
	造形表現演習Ⅰ	演習	1		○													◎	○
	造形表現演習Ⅱ	演習	1				○											◎	○
	授業実践演習	演習	1						○								○	◎	
関連 科目	心理療法概論	講義	2					○											
	発育・発達論	講義	2				○											◎	
	医学・スポーツ医学	講義	2				○												
	栄養学・スポーツ栄養学	講義	2						○										
	健康づくりの理論と方法	講義	2				○												
	スポーツ指導法	講義	2				○												
	運動プログラム管理	講義	2						○										

科目 区分		授業科目の名称	授業 形態	単位 数	1年		2年		3年		4年		共通 開設	卒業 要件			免許・資格関連		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					小学校	幼稚園	保育士
専門 教育 科目	関連 科目	生活習慣病と身体運動	演習	2						○				10 単位 以上					
		健康運動特講Ⅰ	演習	2					○										
		生涯スポーツⅠ	実技	1	○											◎			
		生涯スポーツⅡ	実技	1		○													
		生涯スポーツⅢ	実技	1			○												
		English and Global Teaching	演習	1		○										◎			
		英語コミュニケーションⅠ	演習	2		○													
		英語コミュニケーションⅡ	演習	2		○													
		英語コミュニケーションⅢ	演習	2		○													
		英語コミュニケーションⅣ	演習	1		○													
		インターンシップⅠ	演習	1			○												
		インターンシップⅡ	演習	1					○										
	実習 科目	初等学校体験活動A	実習	1	○									6 単位 以上	◎	●			
		初等中学校体験活動A	実習	1	○										◎				
		初等学校体験活動B	実習	1						○					◎	●			
		初等中学校体験活動B	実習	1						○					◎				
		介護等体験活動	実習	1			○								●				
		初等教育実習事前事後指導	演習	1							○				●	●			
		初等教育実習	実習	2							○				◎	●			
		初等中等教育実習(小・中)	実習	2							○				◎				
		保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習	1						○							●		
		保育実習指導Ⅰ(施設)	演習	1						○							●		
		保育実習Ⅰ(保育所)	実習	2						○							●		
		保育実習Ⅰ(施設)	実習	2						○							●		
		保育実習指導Ⅱ	演習	1							○						◎		
		保育実習Ⅱ	実習	2							○						◎		
		保育実習指導Ⅲ	演習	1							○						◎		
		保育実習Ⅲ	実習	2							○						◎		
		保育・教職実践演習(幼)	演習	2								○				●	●		
		教職実践演習(小)	演習	2								○			●				
	研究 科目	教育学研究法Ⅰ	演習	1					●										
		教育学研究法Ⅱ	演習	1						●									
		卒業研究Ⅰ	演習	2							●								
		卒業研究Ⅱ	演習	2								●							
卒業要件及び履修方法															免許・資格取得条件				
基礎教育科目においては、 「思考力の養成」から必修5科目5単位、 「表現力の養成」から必修を含めて5科目5単位以上、 「人間力の養成」から必修4科目4単位、 「社会力の養成」から必修6科目6単位、 「人間の理解」から2単位以上、 「社会の理解」から2単位以上、合わせて28単位以上を修得すること。															選択科目の履修の方法 は、「3 取得できる免許 及び資格(P.12～)」を参 照とすること。				
専門教育科目においては、 「基幹科目」から必修9科目18単位、 「展開科目」から30単位以上、 「発展科目」及び「関連科目」から10単位以上、 「実習科目」及び「研究科目」から必修を含めて6単位以上、合わせて96単位以上を修得すること。 基礎教育科目と専門教育科目を合わせて、124単位以上を修得すること。																			

●…必修 ◎…選択必修 ○…選択

スポーツ教育専攻 教育課程表 〈令和7年度 入学生〉

科目区分	授業科目の名称	授業形態	単位数	1年		2年		3年		4年		共通開設	卒業要件	免許・資格関連	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			中学(保体)	高校(保体)
基礎教育科目	思考力の養成	情報処理法	演習 1	●									必修5科目5単位	●	●
	情報活用法	演習 1		●										●	●
	統計分析法	演習 1		●											
	問題解決法	演習 1						●							
	創造思考法	演習 1							●						
	表現力の養成	英語Ⅰ(基礎)	演習 1	●									必修を含めて5単位以上	●	●
	英語Ⅱ(応用)	演習 1		●										●	●
	英語Ⅲ(実践)	演習 1				○									
	日本語Ⅰ(読解、分析)	演習 1	●												
	日本語Ⅱ(作文、論文)	演習 1	●												
	日本語Ⅲ(発表、討論)	演習 1		●											
	人間力の養成	自己管理と社会規範	演習 1	●									必修4科目4単位		
	チームワークとリーダーシップ	演習 1				●									
	地域活動と社会貢献	演習 1	●												
	他者理解と信頼関係	演習 1		●											
	社会力の養成	基礎ゼミⅠ	演習 1	●									必修6科目6単位		
	基礎ゼミⅡ	演習 1		●											
	総合ゼミⅠ	演習 1				●									
	総合ゼミⅡ	演習 1					●								
	キャリアプランニングⅠ	演習 1						●							
	キャリアプランニングⅡ	演習 1							●						
	人間の理解	心理と行動	講義 2	○									2単位以上	●	●
	健康と運動	演習 2	○												
	歴史と文化	講義 2				○									
	生命と倫理	講義 2								○					
	社会の理解	社会と憲法	講義 2	○									2単位以上	●	●
	政治と行政	講義 2				○									
	経済と政策	講義 2				○									
	自然と環境	講義 2								○					
専門教育科目	基幹科目	人間形成論	講義 2	●									必修9科目18単位		
	心理学概論	講義 2	●												
	対人関係論	講義 2		●											
	道徳教育論	講義 2		●											
	教育学概論(中・高)	講義 2	●											●	●
	教育心理学	講義 2		●										●	●
	特別支援教育論	講義 2		●										●	●
	教育行政学(幼・小・中・高)	講義 2		●										●	●
	教職概論(中・高)	講義 2		●										●	●
	展開科目	体育実技Ⅰ	実技 1	●								(児)	30単位以上	●	●
	体育実技Ⅱ	実技 1			●							(児)		●	●
	体育実技Ⅲ	実技 1			○									◎	○
	体育実技Ⅳ	実技 1				○								◎	○
	体育実技Ⅴ	実技 1				○								●	●
	体育実技Ⅵ	実技 1		○										●	●
	体育実技Ⅶ	実技 1				○								◎	○
	体育原理	講義 2		●								(児)		●	●
	運動学・運動方法学	講義 2				●						(児)		●	●
	体育心理学	講義 2			○									●	●
	体育経営管理学	講義 2				○								◎	○
	体育社会学	講義 2			○									●	●
	生理学・運動生理学	講義 2		●								(児)		●	●
	衛生学・公衆衛生学	講義 2						●				(児)		●	●
	学校保健(小児保健・精神保健・学校安全及び救急処置を含む)	講義 2						●						●	●
	初等中等教科教育法(体育・保健体育)	講義 2						○						◎	
	中等教科教育法Ⅰ(体育)	講義 2						○						◎	●
	中等教科教育法Ⅱ(体育)	講義 2							○					●	●

科目 区分		授業科目の名称	授業 形態	単位 数	1年		2年		3年		4年		卒業 要件				免許・資格関連	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					中学(保体)	高校(保体)
展開科目		中等教科教育法Ⅲ（保健）	講義	2						○				30 単位 以上			●	●
		中等教科教育法Ⅳ（保健）	講義	2							○						●	●
		教育課程論（中・高）	講義	2			○										●	●
		道德の指導法（小・中）	講義	2				○									●	
		総合的な学習(探究)の時間の指導法（小・中・高）	講義	2					○								●	●
		特別活動の指導法（小・中・高）	講義	2						○							●	●
		教育方法論（ICT活用を含む）	講義	2				○									●	●
		生徒・進路指導の理論と方法（小・中・高）	講義	2					○								●	●
		教育相談の理論と方法（幼・小・中・高）	演習	2						○							●	●
		体力測定・評価法	講義	2				○									◎	◎
		運動部活動の指導法	講義	2						○							◎	◎
		コーチング論	講義	2			○										◎	○
		トレーニング論	講義	2					○								◎	○
		健康管理論	講義	2			○										◎	○
		バイオメカニクス	講義	2				○									◎	○
発展科目		発達心理学	講義	2				○						基礎 教育 科目 と 専 門 教 育 科 目 を 合 わ せ て 124 単 位 以 上	専 門 教 育 科 目 か ら 合 わ せ て 96 単 位 以 上			
		学校心理学	講義	2						○						◎	◎	
		カウンセリング論	講義	2						○								
		学校・学級経営	講義	2						○						○		
		チーム学校論	講義	2								○						
		授業実践演習	演習	1							○					◎	◎	
専門教育科目		心理療法概論	講義	2					○					10 単位 以上				
		発育・発達論	講義	2			○											
		医学・スポーツ医学	講義	2			○											
		栄養学・スポーツ栄養学	講義	2						○								
		健康づくりの理論と方法	講義	2				●										
		スポーツ指導法	講義	2				●										
		運動プログラム管理	講義	2							○							
		生活習慣病と身体運動	演習	2							○							
		健康運動特講Ⅰ	演習	2						○								
		生涯スポーツⅠ	実技	1	○													
		生涯スポーツⅡ	実技	1		○												
		生涯スポーツⅢ	実技	1			○											
		English and Global Teaching	演習	1		○												
		英語コミュニケーションⅠ	演習	2		○												
		英語コミュニケーションⅡ	演習	2		○												
		英語コミュニケーションⅢ	演習	2		○												
		英語コミュニケーションⅣ	演習	1		○												
		インターンシップⅠ	演習	1			○											
		インターンシップⅡ	演習	1					○									
実習科目		初等中等学校体験活動A	実習	1	○									6 単位 以上			●	
		初等中等学校体験活動B	実習	1						○							●	
		介護等体験活動	実習	1			○										●	
		健康体験実習	実習	1	○													
		中等教育実習事前事後指導	演習	1							○						●	●
		初等中等教育実習(小・中)	実習	2							○						◎	
		中等教育実習(中・高)	実習	2							○						◎	●
		教職実践演習(中・高)	演習	2								○					●	●
		健康実践演習	演習	1							○							
研究科目		教育学研究法Ⅰ	演習	1					●									
		教育学研究法Ⅱ	演習	1						●								
		卒業研究Ⅰ	演習	2							●							
		卒業研究Ⅱ	演習	2								●						

卒業要件及び履修方法	免許・資格取得条件
基礎教育科目においては、 「思考力の養成」から必修5科目5単位、 「表現力の養成」から必修を含めて5科目5単位以上、 「人間力の養成」から必修4科目4単位、 「社会力の養成」から必修6科目6単位、 「人間の理解」から2単位以上、 「社会の理解」から2単位以上、合わせて28単位以上を修得すること。 専門教育科目においては、 「基幹科目」から必修を含めて9科目18単位、 「展開科目」から30単位以上、 「発展科目」及び「関連科目」から10単位以上、 「実習科目」及び「研究科目」から必修を含めて6単位以上、合わせて96単位以上を修得すること。 基礎教育科目と専門教育科目を合わせて、124単位以上を修得すること。	選択科目の履修の方法は、「3 取得できる免許及び資格（P.12～）」を参照とすること。

●…必修 ◎…選択必修 ○…選択

育英大学教務委員会規則

(設 置)

第1条 育英大学における教育課程及び教務に関する事項を審議するため、教授会の下に育英大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業計画に関すること。
- (2) 教職指導の企画、立案及び実施に関すること。
- (3) 教職実践科目の実施と評価に関すること。
- (4) 学生の卒業及び成績認定に関すること。
- (5) 学籍の異動（退学、転学、転専攻、休学及び除籍等）に関すること。
- (6) 授業方法の改善及び推進に関すること。
- (7) 教員免許及び保育士資格の取得に係る支援に関すること。
- (8) 非常勤講師(人事を除く。)に関すること。
- (9) 各種委員会等から依頼された事項に関すること。
- (10) その他教務に関すること。

2 前項の審議の結果、必要な事項は各種委員会等へ依頼又は報告をする。

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 各専攻から選出された教員 若干人
- (3) 事務局教務課長
- (4) その他学長が指名する者 若干人

(任 期)

第4条 前条第2号及び第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が議長となる。

(会 議)

第6条 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところに

よる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、具体的な事項を検討させるため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規則は、平成30年3月13日に制定し、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年3月24日に改正し、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年3月26日に改正し、令和7年4月1日から施行する。

育英大学教務委員会規則

(設 置)

第1条 育英大学における教育課程及び教務に関する事項を審議するため、教授会の下に育英大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業計画に関すること。
- (2) 教職指導の企画、立案及び実施に関すること。
- (3) 教職実践科目の実施と評価に関すること。
- (4) 学生の卒業及び成績認定に関すること。
- (5) 学籍の異動（退学、転学、転専攻、休学及び除籍等）に関すること。
- (6) 授業方法の改善及び推進に関すること。
- (7) 教員免許及び保育士資格の取得に係る支援に関すること。
- (8) 非常勤講師(人事を除く。)に関すること。
- (9) 各種委員会等から依頼された事項に関すること。
- (10) その他教務に関すること。

2 前項の審議の結果、必要な事項は各種委員会等へ依頼又は報告をする。

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 各専攻から選出された教員 若干人
- (3) 事務局教務課長
- (4) その他学長が指名する者 若干人

(任 期)

第4条 前条第2号及び第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、教務部長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が議長となる。

(会 議)

第6条 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところに

よる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、具体的な事項を検討させるため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規則は、平成30年3月13日に制定し、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年3月24日に改正し、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年3月26日に改正し、令和7年4月1日から施行する。

大学等名	育英大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	育英大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和8年度

取組概要

①プログラムの目的

本教育プログラムは、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を全学生に修得させ、課題解決に資する人材育成を目的とする。教務委員会が中心となり、科目の整備・運用や学修成果の把握、授業改善を通じて教育の質保証と継続的な改善を行う体制としている。

②身に付けられる能力

本プログラムを通じて、学生は情報機器の基本操作やICTの活用方法を修得するとともに、必要な情報を主体的に収集・整理し、適切に表現・発信する力を身に付ける。また、統計的手法を用いてデータを客観的に分析し、根拠に基づいて判断する基礎的能力が養われる。さらに、情報倫理や情報セキュリティへの理解を深め、情報社会において責任ある行動をとる態度が形成される。

